



# 園だより



令和3年1月28日  
佛教大学附属幼稚園



「仏教保育2月のねらい」  
ぜんじょうせいじゃく  
禅定静寂

「非常事態下だからこそ落ち着いて」

園長 佐藤和順

厳しい寒さが続く2月。子どもは、白い息をはいたり、冷たい空気を肌で感じたり、園庭の氷を手にしたりと小さい身体で季節を感じながら過ごしています。

日本には、春夏秋冬という「四季」があり、それぞれ立春・立夏・立秋・立冬が季節の始まりの日です。前日は季節の変わり目にあたります。「節分」です。節分とは、字の如く「季節を分ける」ことを意味しており、江戸時代以降は特に立春の前日のことを指すことが多くなりました。季節の変わり目には邪気（鬼）が生じると信じられていたこと、また、この時期はまだまだ寒く体調を崩しやすいことから、ちょっとした風邪から大病につながったり、深刻な病をもたらすこともある。そのような病魔を人々は鬼、あるいは疫鬼として恐れ、追い払うためとして、古くから豆まきの行事が執り行われています。今年は2月2日が、その日にあたります。園でも例年とは違う形にはなりますが豆まきを行います。新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら、子どもが楽しみながら多くの行事・活動を体験できるように創意工夫していきたいと思います。

今月の保育目標は「禅定静寂（ぜんじょうせいじゃく）よく考え落ち着いた暮らしをしよう」です。「禅定静寂」とは、落ち着いた豊かな心で、どのような環境にも心静かに対応することを意味しています。思いつきを実行すると、失敗することがまます。行動に移す前にじっくりと考え、世の中の動きに巻き込まれずに、しっかりと地についた生活をしたいものです。

毎日新型コロナウイルス関連のニュースが報道されています。園児からも「コロナにならないようにマスクしている」「コロナに負けないように手を洗う」という声が聞かれます。この1年間、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために私たちの生活様式や価値観も変化し、社会の在り方そのものも変わったような気がします。一連の報道の中で、残念ながら感染者個人を特定しようとする動きや、感染者等へ心ない言葉や行為が見られるという指摘もあるようです。子どもは身近な大人をよく見ていて、良いところも悪いところも全部吸収してしまいます。子どもの手本となるよう、目の前の現象や流行に振り回されることなく、物事をよく考え、心にゆとりを持って発言や行動をしていきたいと思います。このような時だからこそ、一層、よく考え落ち着いて行動したいものです。それこそが「禅定静寂」の心です。

